

二〇二二年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は27ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 五、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～43まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

次の文章は、松本清張まつもとせいちょうの小説『或る小倉日記』あるこくらにっぴの一部分である。明治四十二年、熊本で生まれた田上耕作は、生まれつき身体が不自由であったが、森鷗外もりおうがいの作品に魅せられ、鷗外に関するフィールドワークを始めた。鷗外が北九州の小倉(注1)に居住していた頃の日記が散逸していることを知った耕作は、関係者からの聞き書き資料を集め、鷗外の「小倉日記」の空白を埋める仕事を思いたち、それに人生を賭けることを決意した。母・ふじの理解と援助を受けつつ研究を進める耕作だが、彼の仕事に価値を見出さない人間に出会い絶望することもあった。以下は、小倉時代の鷗外が地元紙に文章を発表していた事実を手がかりに、耕作が次なる鷗外関係者を洗い出そうとする場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

『鷗外全集』を見ると、鷗外aが小倉時代に書いて地元紙に発表したのは次のとおりだ。

「我をして九州の富人たらしめば」

——明治三十二年 福岡日日新聞

「鷗外漁史とは誰ぞ」

——明治三十三年 福岡日日新聞

「小倉安国寺の記」

——明治三十四年 福岡日日新聞

(注2) 「和氣清麻呂と足立山と」、「再び和氣ノ清麻呂と足立山の事に就きて」

——明治三十五年、明治三十六年 門司新報もじしんぽう

耕作が考えたのは、鷗外aの原稿は当時新聞社の小倉支局が連絡に当たったかもしれないことだった。『門司新報』はずっと昔になくなってから、『福岡日日新聞』の後身、『西日本新聞』社について聞くよりほかはない。

明治三十二三年ごろの小倉支局長の、名前と、もしまだ存命であれば、その住所が知りたいと、新聞社の総務課あてに郵便で

聞きあわせた。

この返事に期待することはほとんど不可能だった。五十年に近い昔の一地方支局長の名をいまだに新聞社に記録に残しているであろうか、しかも社は途中で組織が変わっているのだ。もしかりに幸運にも名がわかったとしても、おそらく生きてはいないだろう。むろん、現住所などもわかるまい。耕作の問合わせは万一の僥倖bを恃たんだにすぎなかった。

しかし、しばらくたつて届いたその返事を見ると、キセcキというに近い感じだった。

「調査の上、明治三十二年〜三十六年の小倉支局長は麻生あせう作男さくお。現在、当県みずま三瀨郡やながわ柳河町の寺に居住の由なるも、寺名不詳」
寺名などわからなくてもよかった。これだけで充分だ。小さな町だから寺をたずねまわればわかるに違いない。

耕作は A 気持になった。

「それなら一緒に行っておたずねしようよ。」

と、ふじが話を聞いて言ったのは、耕作が望むなら、どこまでも、ついていつてやりたかったのだ。

二人は汽車に乗った。もう、そのころは戦争がかなり進んでいた。汽車の窓から見る田舎の風景も、農家のほとんどの家が、出征軍人の旗をたてている。車中の乗客の会話も、戦争に関連していた。

小倉から汽車で三時間、久留米くろめで降りて、さらに一時間ほど電車に乗ると柳河に着いた。有明海に面し十三万石のこの城下町は、近年dスイゴウの町として名を知られてきた。道を歩いていても柳を岸辺に植えた川や堀がいたるところに見られたが、町はどこことなく取り残された静かなコウハイeが漂っていた。(I)

柳河の某寺とのみで、寺の名は知れなかったが、行けば田舎のことだから二三の寺をまわるだけで何とかわかるものと勢いこんできたのだが、町の人にきくと、

「柳河には寺は二十四もあるばんも。」

と聞かされて、ふじも耕作も途方にくれた。これだけの寺の数があるうとは予想もしなかったのだ。

(II)

それでも、四つ五つの寺をたずねたが、心当たりはさらに得られなかった。

(Ⅲ) 見るともなくそれを見ていると、耕作の心には、また耐えがたい空虚な感がひろがつてくるのだった。こんなことを調べてまわって何になるか。いったい意味があるのだろうか。空疎な、たわいもないことを、自分だけがものしく考^fえて、愚劣な努力を繰り返しているのではないか。――(Ⅳ)

ふじは横にならんでいる耕^g作の冴^sえない顔色を見ると、かわいそうになってきた。(Ⅴ) それで引きたてるように自分から起^tちあがり、

「さあ、元氣を出そうね、耕ちゃん。」

と歩きだした。ふじのほうが一生懸命であった。

二十四の寺々を一つ一つ尋ねまわらねばならないかと思われたが、あんがいなところに手蔓^{てづる}をみつけた。道を歩いているうちに、ふと、柳河町役場の看板を見つけ、ここにきいてみる工夫を思いついたのである。

ソ^hマツな机に向かつて書類を書いていた女事務員には、麻生作男の名前だけで、心当たりがあつた。が、寺の名はやはり覚えぬと言ひ、傍らの年上の同僚に相談していた。それなら誰々さんに聞いたらわかるだろうとその女が言うと、若い女事務員はうなずいて、その誰々に電話をかけに席を立つた。

電話はなかなか交換手が出ないらしかった。何度か指で電話機をかちやかちやいわせていたが一向に手応えなかつた。

「このごろは局が混んでいるものですから、なかなか出ないのです。」

と女事務員は言いわけのように言った。それは二十ばかりの娘だったが、全体の顔のリンカクⁱから眼^めもとのあたりが、どこか山田^(注3)てる子に似ているとふじは思った。

近ごろ、局が混んでいるというのも戦争の慌^{あわただ}しさが、この片田舎の城下町にも押しよせているのだった。やっとのことで電話が通じ、女事務員は相手と問答しながら紙に鉛筆を走らせた。

「麻生さんはここにおられるそうです。」

と彼女はそのメモを渡し、道順を詳しく教えてくれた。

ふじは丁寧に礼を述べて表に出た。やっとわかったという安心と女事務員の親切が心を明かるくした。山田てる子に似ていたということも

B

気持だった。

ふじには、てる子が今の女事務員のように親切な女のように思えた。嫁になったら耕作のような不自由な身体をやさしくいたわってくれそうだった。そう考えると、てる子にどうしても来てもらいたかった。ふじは横にならんで歩いている耕作に話しかけた。

「ねえ、耕ちゃん。てる子さんはお嫁にきてくれるかねえ？」

耕作は何とも返事をしなかった。その顔は苦しそうだった。それは、不自由な肉体を引きずって、こうして不案内な土地を歩きまわっている苦痛からか、てる子の真意が掴めずにいる苦しみからかわからなかったが、ふじは耕作のために小倉に帰ったら、思いきって必死に話をてる子に切りだそうと決心した。

天叟寺は禅寺だった。藩祖の父に当たる戦国武将(注4)の菩提寺である。案内を請うと四十ぐらいの女が出てきて、わたしが麻生です、と言った。

「麻生作男さんと C のは？」

「はい、父でございます。」

元氣だという返事である。まだ生きていたのだ。耕作もふじも、思わず D くらいうれしかった。さっそくに来意を言う

「さあ、もう老齢ですから、どうでしょう。」

と首を傾けて笑った。

「おいくつでいらっしゃいますか？」

「八十一になります。」

それから、一度奥へ引っこんだが、すぐ出てきて、

「どうぞ、お上がりください。父がお会いすると」

と言った。

E

(松本清張『或る「小倉日記」伝』による)

(注) 1 小倉……福岡県北九州市の中心地区。江戸時代は小笠原氏の城下町であった。

2 和氣清麻呂……奈良時代末期・平安時代初期の公卿(七三三―七九九)。

3 山田てる子……本小説の登場人物の一人。てる子の伯父が鷗外の知り合いであったことから、耕作と親しくなった。

4 菩提寺……一家が代々その寺の宗旨に帰依し、墓所を定め、葬儀を営み、法事などを依頼する寺。

問一 傍線部 a「鷗外」とあるが、森鷗外の作品はどれか。次の1～8のうちから最も適当なもの一つ選びマークしなさい。解

答番号は 1。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-----|---|-------|
| 1 | 破戒 | 2 | 城の崎にて | 3 | 羅生門 | 4 | たけくらべ |
| 5 | 山椒大夫 | 6 | 門 | 7 | 山椒魚 | 8 | 高野聖 |

問二 傍線部 b・f・j は、どういう意味か。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

解答番号は 。

b「僥倖を恃んだ」

- 1 神仏からの恵みが授かるようなのでみた
- 2 予想もしなかったような幸運をあてにした
- 3 運を天にまかせ、思いきった行動に出た
- 4 自身の願いが叶^{かな}うように心から祈ってみた

f「ものものしく」

- 1 感情的に
- 2 こと細かに
- 3 おもむきがあるように
- 4 おおげさに

j「不案内」

- 1 不親切で不自由を感じさせられる状態
- 2 案内をしてくれる人が一人もない状態
- 3 その土地の様子などがよくわからない状態
- 4 知り合いがいなく、不安を感じる状態

問三

傍線部 c・d・e・h・i と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選
びマークしなさい。解答番号は

5

9

。

c「キセキ」

- 1 先生のヘンゲンセキゴも聞き逃すまいとメモを取った。
- 2 祖父は、カンセキを通して得た知識が豊富だ。
- 3 昔、ここには、旅人などを調べたセキシヨがあったそうだ。
- 4 夏休みは地元のキユウセキをたずねる予定だ。

d「スイゴウ」

- 1 その店は、友人を連れて行くとイキなはからいをしてくれる。
- 2 今日のスイジ係は私なので、買い出しに行かなければならない。
- 3 最後の失敗で、これまでの努力がスイホウに帰した。
- 4 釘くぎは、板にスイチヨクに打ってください。

e「コウハイ」

- 1 沖には、ゆっくりとコウコウしている客船が見えた。
- 2 彼は、株でアラ稼かせぎしたらしい。
- 3 先月のコウスイ量は観測史上最大だった。
- 4 知恵をシボしぼって、新しいアイデアを思いついた。

h「ソマツ」

- 1 グルメの人より、ソシヨクに慣れている人の方が健康らしい。
- 2 野生動物の侵入をソシするための道具を買った。
- 3 明治初期、チソ改正が行われた。
- 4 議論の前に、ソアンを提出することになった。

i「リンカク」

- 1 この作品は、他のものとはカクが違う。
- 2 蟬せみの抜けガラガラを探している子どもがいる。
- 3 美しいジヨウカク建築を眺める。
- 4 抽象的なカイガカイガを好んで飾る。

問四

空欄

A

B

D

のを一つ選びマークしなさい。解答番号は10。にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なもの

- | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|---|---------------------------|---|---------------------------|
| 1 | A | 居ても立ってもいられない | B | 矢も楯もたまらない | D | 膝を打つ |
| 2 | A | 安堵 <small>あんど</small> した | B | 矢も楯もたまらない | D | 微笑 <small>ほほえ</small> みたい |
| 3 | A | 泣き出したい | B | 叫びたい | D | 矢も楯もたまらない |
| 4 | A | 矢も楯もたまらない | B | 微笑 <small>ほほえ</small> みたい | D | 叫びたい |

問五

本文では次の文章が抜けている。この文章が入るべき箇所は本文の(I)～(V)のうちどこか。次の1～5のうち最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11。

「二人は道端の石の上に腰をおろして休んだ。そこにも堀が水を湛^たえていて、向かい岸の土蔵造りの壁の白さをうつしていた。空は晴れ渡り、ただ一きれの小さな白い雲が不安定にかかっていた。それは妙に怪^ましいかたちの雲だ。」

1 (I)

2 (II)

3 (III)

4 (IV)

5 (V)

問六

傍線部g「耕作の冴えない顔色」とあるが、その理由はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12。

1 耕作が、自分の取り組んでいる研究の価値への疑問に再び^よ囚われ始めたから。

2 耕作が、自分の今回のフィールドワークが無駄に終わることを恐れ始めたから。

3 耕作が、必死に忘れようとしている子との結婚に母が乗り気であることを感じたから。

4 耕作が、戦時中にもかかわらず母と二人で文学研究をしている自身に空虚な気持ちを抱いたから。

問七 空欄

C

E

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選

マークしなさい。解答番号は 13。

- 1 C 言います E おっしゃっております
- 2 C おっしゃる E 申しております
- 3 C おっしゃられる E 申していらっしゃいます
- 4 C 申される E おっしゃられております

問八

傍線部「来意」とあるが、耕作が麻生を訪ねたのはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしな

さい。解答番号は

14。

- 1 麻生が、小倉の大手新聞社の元支局長であったばかりではなく、小倉時代の鷗外の知己であることに確信を持ったから。
- 2 麻生が、西日本新聞社の元局長であったことから、小倉時代の鷗外の原稿の連絡に当たっていたことが考えられるから。
- 3 麻生が、鷗外の文章を掲載していた地元紙の支局長であったことから、何らかの情報を持っている可能性があるから。
- 4 麻生が、福岡日日新聞の元局長であり、さらに寺に居住していることから、鷗外と接触した可能性が考えられるから。

問九

ふじは、どのような母親として描かれているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答

番号は 15。

- 1 常に息子の幸せを思い寄り添うが、時には息子の心情をよそに先走ってしまうところもある母親。
- 2 身体の不自由な息子を案じ、肝心な場面では息子を支えるが、可能な限り遠くから見守ろうとする母親。
- 3 息子の興味関心を共有し、息子の求めるものを共に追求する知的好奇心にあふれた母親。
- 4 身体の不自由な息子の気持ちを完全に理解し、息子と一心同体となって生きることを決意した母親。

問題二 一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ひとつの時代が、その必要とするものを生みだしていくさまは、驚くばかりである。時代がメッセージを送って個人にフンキ^aをうながすのか、それとも、個人の活躍があつて時代がその方向に動いていくのか。実際、激動のただなかにいる個人には、自分がないをしようとしているのか、その意味は充分につかめない。

A

か、未知の作業を克服してみたいとか、さまざまな個人的な理由で努力し、それが歴史の大きな流れにむすびついてくる場合もある。そうはいかないケースもたくさんあるだろうが、本木昌造^{もときしやうぞう}の仕事は不思議なほど、時代にマッチした。

一八二四年(文政七年)に長崎に生まれた本木が、蘭字^{らんがく}を修め、家業^{注1}の通詞^{つうじ}を継いで明治維新を迎えるのは、四十五歳のときである。通詞とは通訳のことだが、当時はだれがやってもよいのではなく、幕府や藩の仕事であつた。本木昌造も役人として、出島でオランダ語の通訳や翻訳をしていて、そのうち関心が、造船技術と活版印刷にむかつた。前者の知識^bがのちにかれを長崎製鉄所の頭取にし、もう一方の知識^cが、アメリカ人ガンブル^{注2}の助けもあつて、日本最初の金属活字鑄造の成功者^aにしてくれる。以後百年、日本の出版のほとんどが、この技術のお世話になる。

余談だが、わたしが出版社にいた一九六〇〜七〇年のころは、活版印刷から写植(写真植字)印刷への転換期であつたものの、まだ号数活字と呼ばれるものが盛んに使われていた。写植文字は級数で表記する。活版の文字の大きさはだいたいポイントで指定するが、そのほかに、号数で指定する活字がまだ使われていた。初号というのが大きく、四十二ポイントとほぼ同じで、しだいに小さくなり、八号^{注3}までの九段階があつた。「初号見出し」といった言葉があるように、新聞の見出しにもまだ使用されていて、「毎日新聞」の号数活字がきれいなので、本の表紙の表題に使うために、わざわざ借りに行ったこともある。活字の大きさにこのような号数のキジュン^dを設けたのも、本木昌造ら、最初の研究者たちであつた。

誕生したばかりの活版印刷は、まず新聞と結びつく。新聞社を最大のお得意にした。いや、ここは正確に、活版印刷が可能になったことで、日本に近代新聞が発刊された、というべきだろう。逆に、新聞が活版を必要としたから、活字鑄造の技術が発展

した面もある。(中略)

本木昌造が、活版技師ガンブルの指導を受けたのが、明治二年(一八六九年)のころで、和字鑄造に成功するやすぐに、長崎に新塾活版製造所を作り活字の販売をはじめた。ついで、大阪、東京、横浜に活版所を設けた。この横浜の活版所で、日本初の日刊の新聞が刊行されるのである。それが明治三年(一八七〇年)なのだから、なかなかテンポがはやい。横浜活版所の営業マンがあちこち駆けずりまわり、鉛活字の効用を説いて実現した新聞なのだろうか。カツ字とは B 字という意味で、一回印刷したら終わりというのではなく、何度も C 使えろという、なかなか苦勞のネーミングなのである。それでも、何度も使えば磨滅したり欠けたりしよう。日刊の新聞ともなれば毎日、活字を使い、消耗もはなはだしかる。新聞は、活版所にとつて、願ったりかなったりのお得意になる。

「横浜新聞」が「横浜毎日新聞」に改題された明治四年には、「大阪府日報」など、府県がスポンサーになった新聞が各地に生まれている。参議の (注4) 木戸孝允も世論操縦のために、「新聞雑誌」という新聞を出した。当時、新聞はまだ雑誌の一種としか理解されてなく、書店や (注6) 絵草子屋で売られていたから、このタイトルはびったりである。

わずか一年のうちに、ヒモつきf、t、t、t、の新聞が**つぎつぎと**発刊されたのも、ただに活字業者の営業マンの働きのためというのではなく、それなりの政治的社会的な理由があった。すこしだけふれておくが、この明治四年(一八七一年)こそ、廃藩置県が断行され、それに解放令(賤称廃止令せんししょう)でもって封建的身分制が解体された年であった。そしてこの制度一新と、近代新聞の誕生とは、わかちがたくむずびついているのである。

つまり、徳川幕府にあつては、藩と身分制が、「上意下達」のコミュニケーションを可能にし、保証していた。(中略)廃藩置県と解放令とは、とりもなおさず、これらコミュニケーションのルートgの破壊にもつながったのである。このことを当時のトップクラスの参議らがどれほど理解していたのかはよくわからない。しかし、廃藩と解放令を断行してしまうと、すぐに現実的な支障が発生した。府県制ははじまったばかりだし、学制もまだ整っていない。

D、理念先行型の上からの近代化路線に農民が反発した。政府がなにをやるうとしているのかよくわからないので、余計に各地に不平不満が高まっている。それなのに政

府は、彼らに説明し協力を求めるホウサクがないのだ。このとき参議の木戸孝允が、欧米を手本にすることだろうが、新聞というメディアに注目し、自らそこに乗りだしていったのは、当然の行為であった。

E

近代新聞の位置づけは、その後、百十数年たって、政治の様相が変遷し、印刷技術が電子化しても、たいして変わっていない。その位置づけを変えられないことが、テレビなどのメディアにくらべて、新聞をトクイなマスメディアにしているともいえる。

もちろんそれは、わたしたち市民のありようが、たいして変化していない、ということでもある。たとえば、「新聞雑誌」の一号に、

F

路線のつぎのような記事の載っているのを、わたしたちは大声をあげて笑うことができるだろうか。記事によると、日本人が根気にトボしいのは肉食をしないからである。この欠点を克服するために、子供のときから牛乳を飲ませて育てなければならぬ、というのである。同類の記事が、その後、新聞紙上で何度説かれたであろうか。太平洋戦争時代、肉や牛乳を上流階級と軍上層部で独占した時期をのぞいて、キャンペーンはくりかえされる。そして今日では、牛乳にふくまれているカルシウムが子供の成長や、老人の骨粗鬆症によいからうんと飲むようにというのである。新聞は乳業会社の宣伝のために生まれたのだろうか。

一八七二年(明治五年)になると、新聞の重要性はいつそうつのり、政府系の「東京日日新聞」、「日新真事誌」、「郵便報知新聞」が創刊される。

G

翌年には、「公文通誌」などが出て、英字新聞をふくめて五十二種になった。

(塩見鮮一郎「新聞事始」による)

(注) 1 通詞……鎖国時代に長崎でオランダ人との貿易・渉外事務を担当した通訳官兼商務官。

2 ガンブル……ウィリアム・ガンブル(William Gamble)。上海の印刷所「美華書館」等を運営していた活版技師(一八三〇—一八八六)。

3 八号までの九段階……号数活字は初号、一号、二号……と続き、最小の八号まで九種となる。

4 参議……明治政府の王政復古により太政官制が復活した際に成立した政府の役職。

5 木戸孝允……日本の幕末から明治時代にかけて活躍した政治家(一八三三—一八七七)。

6 絵草子……絵草紙。江戸時代に作られた絵入りの小説。

問一

傍線部 a・d・h・j・k と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選
びマークしなさい。解答番号は 16 20。

a「フンキ」

- 1 近くの山がフンカした。
- 2 冷静に事態をフンベツすることが大切だ。
- 3 決勝を前に、チームはフルい立った。
- 4 マギらわしい説明をされて混乱した。

d「キジュン」

- 1 戦いに敗れ、相手へのキョウジュンの意を表す。
- 2 既存の条例にジュンじて新制度を作る。
- 3 君主にジュンじた臣下を供養する。
- 4 内堀が城の周りをメグっている。

h「ホウサク」

- 1 庭にサクを設けた。
- 2 この油絵は彼女の会心のサクだ。
- 3 宇宙タンサク機の開発が盛んだ。
- 4 組織を乗っ取ることをカクサクする。

j「トクイ」

- 1 審判の判定にイゾンありません。
- 2 これは外国語の文章をイヤクしたものです。
- 3 イセイの良いかけ声が聞こえてくる。
- 4 月のイソウ変化を調べる。

k「トボしい」

- 1 ここ数日、雑事にボウサツされている。
- 2 王国をメツボウに導いたものについて考察する。
- 3 鉄分がケツボウすると体調が崩れやすくなる。
- 4 一瞬のミスでチャンスがボウに振ってしまった。

問二

空欄

A

D

E

G

ら最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 21 にあてはまる接続詞の組み合わせはどれか。次の1～4のうちか。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | A | そこで | D | ところで | E | そのうえ | G | しかし |
| 2 | A | しかし | D | しかも | E | そして | G | さらに |
| 3 | A | そのため | D | すなわち | E | しかも | G | そのうえ |
| 4 | A | だが | D | しかし | E | さらに | G | つまり |

問三 傍線部b「前者の知識」、傍線部c「もう一方の知識」とあるが、それぞれなにを指すか。次の1～8のうちから最も適当な

ものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は、傍線部bは 22、傍線部cは 23。

- | | | | |
|------------|---------------|-----------|-----------|
| 1 オランダ語の知識 | 2 役人としての業務の知識 | 3 蘭学の知識 | 4 活版印刷の知識 |
| 5 家業の通詞の知識 | 6 造船技術の知識 | 7 製鉄技術の知識 | 8 金属活字の知識 |

問四 傍線部e「活版印刷は、まず新聞と結びつく」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 24。

- 1 新聞と活版印刷は共に互いを必要としていたから。
- 2 新聞は活版所にとって一番のお得意様だったから。
- 3 活版所の営業係が新聞社に熱心に働きかけたから。
- 4 日本の近代化には新聞は不可欠なメディアだから。

問五 空欄 B ・ C にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 25。

- | | |
|------------|----------|
| 1 B 元気な | C 立ち上がって |
| 2 B はねた | C はねかえって |
| 3 B よみがえった | C よみがえって |
| 4 B 生きた | C 生きかえって |

問六 傍線部 f「ヒモ、つきの新聞」とあるが、具体的にはどういふものか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 改革についての啓蒙を施す新聞。
- 2 全国各地の民衆と連帯した新聞。
- 3 時の政府の意向を反映した新聞。
- 4 企業の宣伝的側面が特徴の新聞。

問七 傍線部 g「現実的な支障」とはなにか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 新制度へ不満を抱く人々に向けての、政府の理念や方針を説明する手段の欠如。
- 2 身分制に縛られない情報の共有を可能にしていたコミュニケーションルートの崩壊。
- 3 政府によって無計画に進められる制度改革に対する国民全体の政治不信。
- 4 学制などが整序化されていないために起こる読み書き能力や、理解能力の低下。

問八 傍線部 i「近代新聞の位置づけ」とあるが、具体的にはどういふことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

- 1 欧米を手本に、近代化を促すメディアとしての位置づけ。
- 2 世論を操縦するためのメディアとしての位置づけ。
- 3 時代が必要とするものを体現するメディアとしての位置づけ。
- 4 企業キャンペーンの場を提供するメディアとしての位置づけ。

問九 空欄

F

番号は 29。

にあてはまる四字熟語はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答

1 千載一遇

2 一字千金

3 大義名分

4 脱亜入欧

問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

診断とは何でしょうか。

医者である私がこのように問うと、ちよつとめんどくさいなあ、早く結論だけ教えてくれよ、と思つてしまいますよね。実は、「診断というのはいくばくかの考えはあります」と一言で言い表せないというのがまずは答えなのです。

私は医師で、診断についてはブライブン研究^bしましたし、スキルを磨き、知識を蓄え、そして経験を積んできましたので、「診断つてこういうものだなあ」といういくばくかの考えはあります。でもいつまでたつてもわかつたような気になりません。

医療全般を見渡したとき、「診断」というもののほど、割とすぐ話題にされやすくそして一般の方や初学者がわかつたような感覚にすぐなつてしまうのに、実はどんなに熟達したように思ってもその深さをいつまでも思い知らせてくれる分野はありません。

診断について、わかりだすと途端にその深みに嵌まり込み^d、そこから這い出たような気になつても、また方向を見失うようなことさえあります。

熱が出て病院に行ったら、鼻に綿棒を入れられて一〇分後に呼ばれて診察室に入ったら、はい、インフルエンザの診断でした。突然ひどい頭痛がしてこんな初めてだと思つたので救急車で病院にハンソウされてCTスキャンを撮つたら、はい、くも膜下出血の診断でした。このように、一般の人でも「診断」という言葉は非常に馴染みがある言葉であるにもかかわらず、私はさつきから「深さ」だの「いつまでたつても診断というものはわからない」だの、わけがわかりませんね。

こうした「診断」にまつわる構図が、何に似ているかといえは、私は「哲学」に似ていると思つています。ああ、また話を難しくする！と思わずに少しだけ聞いてください。よく哲学の入門書、ここでは学問としての哲学、専門書としての哲学書、というのではなく、それこそ新書のような一般の人へ哲学の手ほどきをする超初級者向けの本を想像してください。私はそういうタイプの書籍を読むことが大好き(広く、いろんな分野をつまみ食いをするのが大好き)なのですが、大抵のそのような入門書の導入部分には次のようなことが書かれています。

哲学といっても大げさに考えることはありません。哲学は日常の何気ない疑問から始まります。中学生でも哲学はできるのです。

と、このようなりードで大概始まります。そして必ず、誰でも考えることができる疑問を投げってきます。例えば、

「私はどうして他の誰かではなく、あの人が好きなんだろう」

「神様が存在することは証明できるか」

という、ちょっとだけハツとするようなやや刺激的な問いから始め、でも中学生や学問を普段しないような人にも思い起こすことができそうな疑問を導入に持ってきます。これも立派な哲学であると。

このように「哲学」を初学者に手ほどきするとき、このような柔らかな導入手法が採られることが多いのですが、これはそのまま「診断」にも当てはまると思うのです。哲学と診断。これが同じだと言ってしまうと、本当の哲学者に怒られてしまうかもしれません、私の理解では、両者はともに深遠なものだと思うのです。あ、いやいま私は間違ったことを言いました。私の理解ではという部分です。もしかしたら、私が理解していると私が思っている診断というものは、そもそも診断というものはわからないし診断というものに私の理解が及ばないところにも診断というものが……はい、深みにハマりましたね。「神断^{しんだん}」って私は呼ぶこともあるくらいです。

そうなんです。「診断」というものには本来あまり触れてはいけなかったのです。急に元も子もないことを言い始めてしまっiて少し反省していますが、それでも本章では項目ごとに私なりに「診断」というものについて噛み砕^かいていこうと思えます。

(注) この小題は、診断というものの意味や意義を問おうというものです。何のために診断するかですが、これはあまり理屈をこ

ねずに実際的にシンプルに答えれば、治療のためです。

ここで、とても大事なことを述べます。それは、診断名を決めなければ治療ができないということはない、ということですが、この理解は非常に大事です。これにこだわっているために、肝心の治療が始められないという場面が最近は特に多いように思います。

治療と言っても何の病気の治療？ がんのように、がん細胞の証明、ステージの確定のちに最善のエビデンスを用いて最良の治療を考案する。診断がなければ治療が決められない。確かにそうです。しかし病名・診断名をあえてカチツと決めずにする治療もたくさんあるのです。例えば、かぜの治療全般がそうです。

論をなるべく逸そらさないように述べ直しますが、診断をつけることは重要ですが、重要であることと、必須・前提であるということとは違います。患者さんはともかく、医者でもこの両者を知らず置き換えてしまう誤ご謬びょうにオチくイくることがしばしばあります。わかりやすくいえば、診断は、できればつく方が嬉うれしいけれど、診断が確定しなければ何もできないというわけではないということなのです。診断は治療をするために必ずしも必須ではありませんし、前提でもないのです。

一方、診断というのは誰のためでしょうか。先ほど私は「診断は治療のためにする」のだと述べました。これによれば、診断は誰のためかといえば患者さんのためであろうと考えると思います。私もそう思います。でもそう思うリリ口口が少し一般の皆さんとは違うかもしれません。

私は、「患者さんのためにするのは治療」だと思っています。診断は治療のためだと先ほど申し上げました。つまり私の感覚では、診断は患者さんのためだと厳密には思っていないのです。診断は治療のためで、治療は患者さんのためで、まあ結果として診断が患者さんのためになっているなあとと思います。この前半部分「診断は治療のため」に注意を払まつてみてください。この部分の世界を想像してほしいのです。医者いのする営えい為わいだけにこんがいていいえば、ここには「患者」というものが登場しません。診断を考えた治療に結びつけるというプロセスは、医者だけがやっています。例えば、検査結果をPC端末で独りで確認しているとき、診療カンファレンスの場、病理診断室、各科の検討事項を電話やメールでディスカッションする、といったことは、対象は

確かに患者さんの病状についてはありますが、患者さん不在の中、進行していきます。患者さんの知らないところで、医者は非常に多くの時間と労力を割いているのです。これらは大概、治療のためです。もちろん診断に不明性が高く、そのために診療現場は錯綜さくそうすることもあり、それがメインの検討事項になることもあるでしょう。それはそれで何が悩ましいかと言えば、なかなか治療に結びつかないからです。だから医者というのは、診断がつかないという状況は本当にストレスです。

「診断は患者さんのため」などといえ、いかにも患者さん本位で物言いは美しいですが、私からすればまったく患者さんのためになど診断をしようとは思っていません。治療に役立つ、直結するから診断を頑張るのです。誤解を手堅く避けるために言いますが、治療は患者さんのためです。これは間違いないです。ここでようやく患者が登場するのです。「適切な治療」というのは、必ずしも副作用がゼロではなく、そもそも治療には通常リスクを伴います。だから患者さんを巻き込んだ話に必ずなります。リスクを説明せねばいけませんし、その治療を実際に患者さんの中に施すわけですから。

診断というのは治療のためであって、直接的な意味においては患者さんのためにしているわけではないということがわかりましたでしょうか。ここではまだピンとこないくらいの理解で構わないです。ちょっと冷たく思われてしまったかもしれませんが、私は私が診断というものを考える上ではこのことの説明は外せないと思っていますので強調しました。

(國松 淳和) 医者は患者の何をみているか―プロ診断医の思考』による)

(注) この小題……この文章には「診断は何のため? 誰のため?」という小題がついている。

問一 傍線部 a「ちよつとめんどくさいなあ」とあるが、なぜそのように思うのか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ

選びマークしなさい。解答番号は 30。

- 1 医者である筆者にしても答えがわからないことを、医者でもない人々に質問するから。
- 2 医者である筆者には答えがわかりきっていることだと思ふのに、わざと質問するから。
- 3 医者である筆者が、答えがわかつて当然だという態度で、医者でもない人々に質問するから。
- 4 医者である筆者が、医者でもない人々には答えがわかるはずもない極めて専門的なことを質問するから。

問二 傍線部 b・e・k・l と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び

マークしなさい。解答番号は 31 ～ 34。

b「ズイブン」

- 1 学問のシンズイを究めるためには、大変な努力が必要だ。
- 2 彼は、日本文化にシンスイし、日本に住みついた。
- 3 日本の第一次産業は、スイタイの一途をたどっている。
- 4 彼は、総理大臣のズイコウインとしてイギリスに行った。

e「ハンソウ」

- 1 彼は人嫌いなので、世俗のハンタを避けようとしている。
- 2 ヨットが湖上をハンソウしている。
- 3 大きな美術展が終了したので、作品をハンシュツした。
- 4 この大皿は、食器のハンブ会で買いました。

k「オチイ^る」

- 1 販売した商品にケツカン^があつた場合は、商品をお取り替えいたします。
- 2 大人げない行動をしてしまい、誠にカンガンの至りです。
- 3 あの書にはラツカン^がないので、本物かどうか疑わしい。
- 4 弟子を育てるためには、カンダイな態度で教え諭すべきだ。

1「リロ[」]

- 1 ギョクロ^は、香りも味もよい最上の緑茶です。
- 2 彼はまたヨーロッパを放浪するそうだが、安らかなタビジ^を祈りたい。
- 3 昔からダンロ^{のある家}に^あこがれている。
- 4 手紙にはジゴウ^{のあいさつ}を入れた方がよい。

問三

傍線部 c・f・h の本文中における意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。解答番号は 35 ～ 37。

c「いくばくかの」

- 1 どのような
- 2 ほとんどない
- 3 どれくらいのもの
- 4 わずかの

f「まつわる」

1 からみつく

2 影響を及ぼす

3 関係する

4 収束する

h「つまみ食いをする」

1 おもしろそうなところを少しずつ学ぶ

2 こっそりと少しずつ学ぶ

3 都合のよい部分だけを食べる

4 指でつまんで味わう

問四

傍線部d「深みに嵌まり込み」とあるが、どういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 38。

1 自分の理解は正しいけれど、もっと深く理解することができるに違いないと誤ってしてしまうこと。

2 自分の理解は正しいけれど、より本質を突いたものを考えるべきだと思うこと。

3 自分が理解したと誤っていることが本当に正しいことであるのを、どのようにしたら証明できるのか考え込んでいること。

4 自分が理解したと誤っていることが本当に正しいのか、もっと別の理解の仕方があるのでないかと思い、わからなくなってしまうこと。

問五

傍線部g「私は「哲学」に似ていると思っています」とあるが、「診断」がどのような点で「哲学」に似ているのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

39。

- 1 ともに初学者には理解不能な点。
- 2 ともに深遠なものである点。
- 3 ともに刺激的な問いかけが必要な点。
- 4 ともに本来触れてはいけないものである点。

問六

傍線部i「急に元も子もないことを言い始めてしまった」とあるが、「元も子もないこと」とは具体的にはどういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

40。

- 1 診断とは何かと問いかけていながら、診断というものに本来はあまり触れてはいけない、と言っていること。
- 2 診断とは何かと問いかけていながら、一言では言い表せない、というのが答えになっていること。
- 3 柔らかな導入手法が採られることが多い点で哲学と診断が同じだと言っていること。
- 4 診断について研究したが、診断とは何かについて明確にわかったような気にならないこと。

問七

傍線部j「この理解」とあるが、具体的にはどういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

41。

- 1 診断名を決めなければ治療はできないということ。
- 2 診断名が決まれば治療はできないということ。
- 3 診断名が決まらなくても治療はできるということ。
- 4 診断名が決まれば治療はできるということ。

問八 傍線部 m「この部分の世界」とあるが、具体的にはどういふものか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマ

クしなさい。解答番号は 42。

- 1 診断カンファレンスの実施。
- 2 診療現場の錯綜。
- 3 診断を考え治療に結びつけるまでのプロセス。
- 4 医者にストレスのかかる、診断がつかないという状況。

問九 傍線部 n「私からすればまったく患者さんのためになど診断をしようとは思っていません」とあるが、それはなぜか。次の

1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 43。

- 1 診断の場に患者は一切関係がないから。
- 2 患者のためにするのは診断ではなく治療であるから。
- 3 患者のためにする診断には不明性が高いものもあるから。
- 4 患者本位の物言いの美しさは表面的なものにすぎないから。